

事業報告

(2019年12月16日から2020年3月31日まで)

消費者・生活者を取り巻く環境は、ICTやAI、IoTなどに代表される技術革新、少子化や超高齢化の急激な進展とそれに伴う社会制度の変容など、絶え間なく変化を続けてきています。また、SNSや電子決済の急速な普及などで身の回りの生活がますます便利になる一方、GAF Aなどに代表されるように、消費者と企業との情報格差の拡大や、グローバル化などによる価値観の多様化、そして経済的、社会的な格差がさらに進んでいます。

特に身体的障害、知的・精神的障害、経済的障害を抱える「脆弱な消費者」(vulnerable consumer)が増加するなど、豊かで質の高い消費生活を実現するための問題は山積しています。こういった背景から、SDGs(持続可能な開発目標)では、これらの「課題解決」のために幅広い層の人々の参加や活動が求められています。

これらの課題を解決し、消費者市民社会の実現に向けて、「消費生活や学校教育のスペシャリスト」だけにとどまらず、他の様々な団体とのネットワークを作り、多様な主体が生活者視点で連携、協働して、消費生活における「社会的な課題解決」のための活動へ容易に参加できる仕組み作りや、支援の担い手となる人材の育成を行っていく必要があります。

われわれは、永年にわたり、消費生活に関する支援を必要とする方々を対象とした金銭管理教育などを、メンバーと協力しながら実施してきました。

このたび、その組織(多重債務者問題からみた社会福祉のあり方研究会:おたふくけん)を発展的に解消し、「消費生活総合サポートセンター」は昨年12月に設立しました。

当センターでは、消費者が直面する社会的課題の解決のため、資格や領域を横断しながら3つの柱で活動し、消費者を総合的にサポートします。

本年度が活動の初年度にあたりますが、当センターの存在をアピールするために、本年度の事業・活動としては、以下を実施しました。

【行政・企業・団体との協働】

1. 令和元年度 全国消費者教育ネットワーク会議

消費者教育は、私たちの生活の多くの事柄に関連するため、様々な立場の幅広い担い手が取り組んでいます。消費生活総合サポートセンター(Cサポ)では、全国で消費者教育に取り組む様々な主体が相互に連携・協働し、今後日本の消費者教育を強力に推進していくためのネットワーク作りの推進を目指します。

今回のシンポジウムでは、新たなつながりからみえる消費者教育の展望をテーマに、「脆弱な消費者」「消費者教育」「エシカル消費」のスペシャリストが議論しました。参加者は新型コロナウ

イルス禍の影響はありましたが、25名にのびりました。

・開催日時：2020年3月6日（金）15：00～18：00 於 霞会館

・スケジュール

15:00 開会挨拶 専務理事 新井 秀雄

15:05 基調講演

東京家政学院大学現代生活学部 准教授 小野 由美子 氏

15:40 シンポジウム「新たなつながりからみえる消費者教育の展望」

コーディネーター

東京家政学院大学現代生活学部 准教授 小野 由美子 氏パネリスト

消費者庁消費者教育推進課 企画官 米山 眞梨子 氏（一社）

日本エシカル推進協議会 理事 薄羽 美江 氏

16:25 休憩（質問票回収・名刺交換会）

16:45 パネルディスカッション

17:30 今後の活動について 理事／消費者教育委員長 中上 直子18:00

閉会挨拶 会長 小野 由美子

当日は規模を縮小しての開催となり、様々なご協力やご配慮を頂きました。

制約のある中ではありましたが、今後の方向性にも関わるテーマについて活発なご意見を頂く機会を頂戴することができまして、心より感謝を申し上げます。